

第2期行田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗状況（R3年度末）

- 基本目標 1 産業を振興し、魅力的な雇用を創る【地域産業振興戦略】 P2
- 基本目標 2 地域の魅力を高め、人の流れと賑わいを創る【魅力アップ・賑わい創造戦略】 P7
- 基本目標 3 市民が希望する結婚・出産・子育ての環境を創る【子ども安心育成戦略】 P11
- 基本目標 4 時代に合った活力ある安心な地域を創る【地域活力創造戦略】 P16

■凡例

種類	状況
	目標値を達成しているもの
	目標値は達成していないが数値が上昇(30%以上)しているもの
	数値が微増(30%未満の上昇)または横ばいに止まるもの
	数値が悪化しているもの

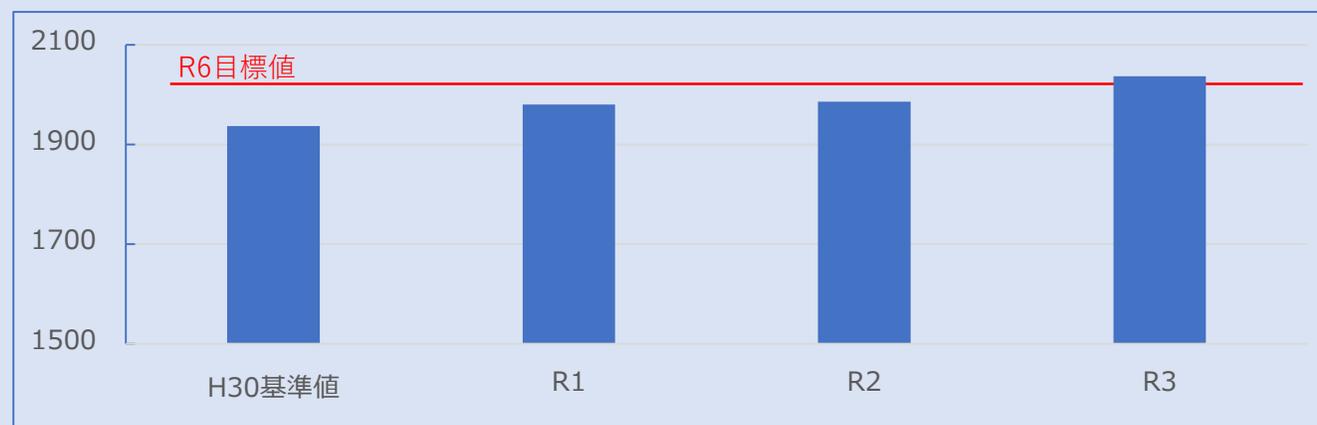
矢印右側の「*」マークは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が考えられるもの

基本目標 1 産業を振興し魅力的な雇用を創る【地域産業振興戦略】

基本目標

指標名	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R6目標値	状況
市内企業数 (※)	社	○	1,937	1,980	1,986	2,037	2,010	↑

※法人市民税均等割の納税義務者数



(1) 企業誘致の推進と雇用の創出

(2) 地元企業育成と起業・創業支援の強化

(3) 農業の担い手確保と成長支援

(1) 企業誘致の推進と雇用の創出

A. R3年度に実施した主な事業

- ・富士見工業団地拡張地区産業団地の整備促進
- ・企業立地奨励金の交付（施設設置奨励金12件、雇用促進奨励金1件、用地取得奨励金2件）

B. K P I（重要業績評価指標）の状況

K P I	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R6目標値	状況
富士見産業団地拡張地区における雇用者数	人	○	—	—	—	—	250	—

C. 課題と今後の取組み予定

- ・富士見工業団地地区拡張地区産業団地は、整備の過程で埋蔵文化財が発掘されたことから発掘調査に時間を要しており、現時点で分譲に至っていない
- ・富士見工業団地拡張地区産業団地の早期整備に向け、引き続き県企業局と協議・調整を行う
- ・企業立地奨励金は、R2年度に条例を改正しており、R3年度以降は富士見産業団地拡張地区産業団地への立地企業に対してのみ交付することとした

(2) 地元企業育成と起業・創業支援の強化

A. R3年度に実施した主な事業

- ・ 創業支援ワンストップ相談窓口
- ・ 起業家支援事業補助金（6件交付）
- ・ チャレンジショップ事業（1店舗）
- ・ 「足袋のまち行田」活性化推進協議会による行田足袋のPR（商業施設でのデジタルサイネージによるPR等）

B. KPI（重要業績評価指標）の状況

KPI	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R6目標値	状況
起業・創業支援件数	件	○	—	3	10	16	35	

C. 課題と今後の取組み予定

- ・ R3年度には、創業支援窓口で商工会議所との連携により5件の起業につなげたほか、起業家支援事業として6件の起業に対して補助金を交付するなど、順調に推移しているが、今後のさらなる利用促進のため、市外で開催される創業支援イベント等でPRを実施するなど、周知を強化する
- ・ チャレンジショップ事業は、忍地区で1店舗（物販店舗）を運営中であり、飲食店舗を想定した2店舗目の開拓に取り組む

(3) 農業の担い手確保と成長支援

A. R3年度に実施した主な事業

- ・ 農地中間管理事業
 - ・ 農地適格所有法人の育成支援
 - ・ 担い手育成支援（青年等就農計画作成支援・認定2件）
 - ・ 「攻めの農業支援事業補助金」によるスマート農業促進（9件交付）
 - ・ 行田ブランド農産物の育成支援（行田在来青大豆、行田在来枝豆）
- ・ 鴻巣・行田地区（埼玉・野地内）ほ場整備

B. K P I（重要業績評価指標）の状況

K P I	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R6目標値	状況
農地中間管理事業取組面積	Ha	○	209	284	340	386	380	↑
大規模ほ場(30a以上)整備率	%	○	31	31.2	31.8	32	32	↑
農地所有適格法人数	件	○	8	8	11	11	16	→
担い手育成支援件数	件	○	5	6	6	8	10	→
攻めの農業支援事業取組数	件	○	8	13	16	25	26	→
ブランド化推進品目	件	○	2	2	2	2	3	→

(3) 農業の担い手確保と成長支援

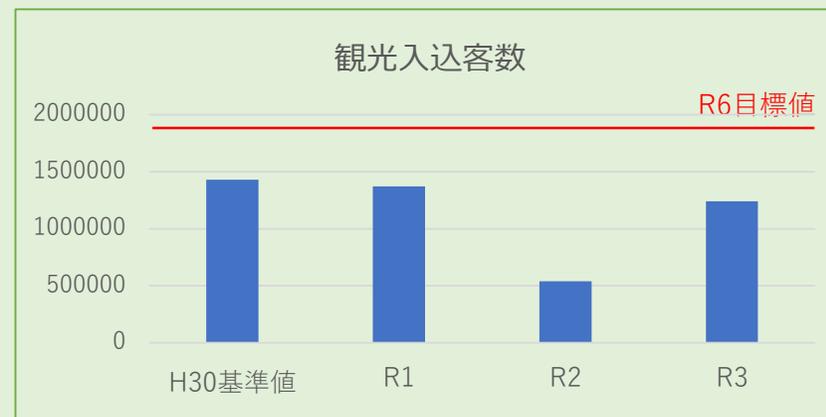
C. 課題と今後の取組み予定

- ・ 農業委員が中心となり農地中間管理事業の活用を推進した結果、R3年度は取組み面積が大きく増加し、目標面積を達成した
- ・ 今後は、埼玉県農林公社を通じて、事業が進んでいない地域への説明を行う
- ・ 担い手育成支援事業は、引き続き相談を受け付け、加須農林振興センターなど関係機関と連携した支援を行う
- ・ 市内営農者の有志で組織する協議会によりトラクター等の自動操舵システムに必要なRTK基地局が設置されスマート農業の環境が整備されつつあるが、機械が高額で活用できる営農者が限られている状況であることから、引き続き、攻めの農業支援事業補助金による導入支援に取り組む
- ・ 行田ブランド育成支援として、行田在来枝豆を市内直売所や県内スーパーに加えて、JAタウンを活用したインターネット販売を実施。今後も行田在来青大豆と行田在来枝豆について、全国展開やネット販売強化を図るなど、既存ブランドの強化を優先して進めていく

基本目標 2 地域の魅力を高め、ひとの流れと賑わいを創る【魅力アップ・賑わい創造戦略】

基本目標

指標名	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R6目標値	状況
人口社会増減数	人		△57	△85	△73	△223	200	↓
観光入込客数	人		1,431,153	1,370,776	540,535	1,239,638	1,900,000	↓*



(1) 地域資源を活かした観光戦略の推進

(2) 拠点エリア整備による賑わいの創出

(3) 行田の魅力発信

(1) 地域資源を活かした観光戦略の推進

A. R3年度に実施した主な事業

- ・ぶらっと♪ぎょうだリニューアルオープンや新商品（行田の餃子、行田花手水金平糖）の開発・販売
- ・団体型旅行促進事業（5,772人分を補助）
- ・観光案内標識の多言語化
- ・サイクリングマップ製作、レンタサイクル入替
- ・田んぼアート米づくり体験事業
- ・花手水「ライトアップイベント 希望の光」開催（8回）
- ・行田花手水week12カ月開催
- ・フィルムコミッションロケ地調整（6件）

B. K P I（重要業績評価指標）の状況

K P I	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R6目標値	状況
観光協会(DMO)ウェブサイト閲覧回数	件		499,491	377,733	976,246	1,653,327	550,000	↑
主要観光施設(※)入込客数	人		444,447	453,808	231,109	714,115	500,000	↑

※古代蓮会館及び駐車場・郷土博物館・さきたま史跡の博物館・はにわの館・ぶらっと♪ぎょうだの5施設

C. 課題と今後の取組予定

- ・R2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、入込客数が大幅に減少したものの、R3年度は行田花手水weekやライトアップイベント希望の光の開催、団体型旅行促進事業等の実施により目標値を上回った
- ・さきたま古墳公園拡張エリアに、観光物産施設「(仮称)さきたま市場」をおもてなし観光局と共同整備
- ・R4年度の田んぼアートは、人気マンガとのコラボレーションにより実施し、多くの観光客を集客している

(2) 拠点エリア整備による賑わいの創出

A. R3年度に実施した主な事業

- ・八幡通り沿線の修景整備（ふるさとづくり事業補助金6件交付）
- ・行田はちまんマルシェを毎週日曜日に定期開催

B. K P I（重要業績評価指標）の状況

K P I	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R6目標値	状況
八幡通り歩行者通行量	人		—	1,240	—	—	1,370(R4)	—
ふるさとづくり事業補助件数	件	○	13	13	18	24	30	

C. 課題と今後の取組予定

- ・ふるさとづくり事業の補助件数が伸び悩んでいることから、R4年度に制度の全面リニューアルを行う
- ・同事業の1メニューである「街なみ景観形成先導モデル事業」は、R4年度、引き続き八幡通り沿線をモデル地区として実施するとともに、効果を検証するための歩行者通行量調査を行う
- ・整備効果波及のため、次のモデル地区選定について検討する
- ・引き続き、八幡通りで、行田はちまんマルシェを毎週日曜日に定期開催する

(3) 行田の魅力発信

A. R3年度に実施した主な事業

- ・市ホームページリニューアル
- ・移住定住パンフレット作成配布
- ・行田動画チャンネルへの新規動画掲載（30本）
- ・ふるさと納税促進（寄付件数3,736件、寄付額総額54,079,500円）

B. K P I（重要業績評価指標）の状況

K P I	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R6目標値	状況
移住・定住ポータルサイトアクセス数	件		—	1,445	4,996	5,250	2,400	↑
YouTubeぎょうだ動画チャンネル総再生回数	件	○	143,012	183,581	248,162	322,577	320,000	↑
ふるさと納税寄付金額	円		21,600,000	27,151,000	31,000,000	54,079,500	35,000,000	↑

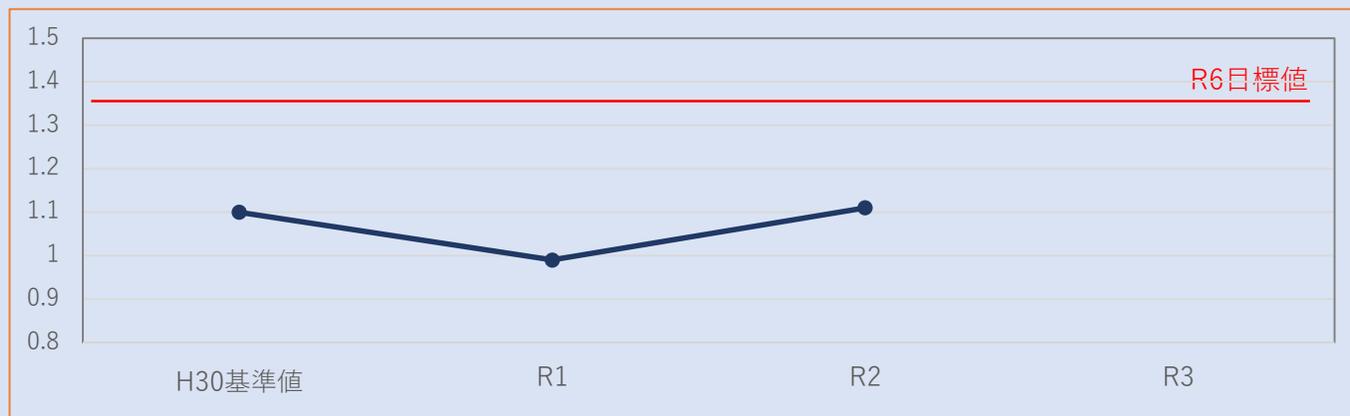
C. 課題と今後の取組予定

- ・R3年度は、花手水や市内の花を紹介する動画、田んぼアート完成過程の動画など30本の動画を新たに投稿し総再生回数は順調に伸びているが、R4年度は新たにドローンを導入し、空撮動画などの魅力的な動画作成・投稿によるPRを図る。また、日本遺産認定5周年を記念した構成資産の空撮動画を作成し投稿する
- ・ふるさと納税のさらなる促進のため、返礼品事業者の開拓や、ふるさと納税ポータルサイトへ追加で登録する
- ・移住定住パンフレットを更新し、ふるさと回帰フェア等のイベントで配布しPRする

基本目標 3 市民が希望する結婚・出産・子育ての環境を創る【子ども安心育成戦略】

基本目標

指標名	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R6目標値	状況
合計特殊出生率			1.10	0.99	1.11	※	1.36	➡



※R3年度数値は今後公表予定

(1) 結婚・妊娠・出産・子育てのライフステージに応じた支援

(2) 子育てと就労の両立支援

(3) 行田の未来を担う人材育成

(1) 結婚・妊娠・出産・子育てのライフステージに応じた支援

A. R3年度に実施した主な事業

- ・不妊治療費助成事業（不妊治療44件、早期不妊検査7件、不育検査1件）
- ・乳幼児家庭訪問事業
- ・地域子育て支援拠点事業（7か所）
- ・産科医等手当支給支援事業
- ・4か月児健診個別健診事業
- ・こそだて応援訪問事業
- ・子ども医療費支給事業

B. KPI（重要業績評価指標）の状況

KPI	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R6目標値	状況
乳幼児健診受診率	%		92.06	91.7	95.8	94.90	98.00	
子育て包括支援センター相談件数	件		923	1,462	1,261	1,392	1,000	
地域子育て支援拠点利用者数	人		29,778	26,938	18,066	21,863	30,000	*
こそだて応援訪問件数	件		10	8	2	0	10	*

C. 課題と今後の取組予定

- ・健診の充実及び保護者の利便性向上を図るため、引き続き、4か月児健康診査を市内の指定医療機関で実施する
- ・子育て包括支援センターや地域子育て支援拠点のPRを行い利用を促進する
- ・こそだて応援訪問は、感染症拡大の影響もあり利用者が減少している
- ・子ども医療費は、R4年10月受診分から窓口払い不要な現物給付を県内医療機関に拡大する

(2) 子育てと就労の両立支援

A. R3年度に実施した主な事業

- ・ 保育所等延長保育事業（11保育園、1認定こども園）
- ・ 幼稚園等預かり保育事業（市内8園、市外3園）
- ・ 病児・病後児保育の対象年齢を小6まで拡大
- ・ 女性の活躍推進・キャリア形成支援セミナー
- ・ ショートステイ事業、トワイライトステイ事業
- ・ 放課後児童健全育成事業（19学童保育室）

B. K P I（重要業績評価指標）の状況

K P I	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R6目標値	状況
保育所待機児童数(4/1時点)	人		0	0	0	0	0	↑
学童保育室待機児童数(4/1時点)	人		87	83	0	0	0	↑
女性のキャリア形成支援のための講座参加者数	人		107	117	111	17	120	↓*

C. 課題と今後の取組予定

- ・ 今後も、延長保育や病児・病後児保育など多様な保育需要に対応した事業を実施する
- ・ 女性のキャリア形成支援講座として、今後は、対面形式だけでなく、オンライン講座など多様な開催方式により実施することで、参加者数の増加を図る

(3) 行田の未来を担う人材育成

A. R3年度に実施した主な事業

- ・ 学力向上支援教員配置による複数指導
- ・ タブレット端末等ICTを活用した学習の充実
- ・ 体力向上推進委員会による体力向上だより発刊、県体力テスト分析と対策（改善検討）
- ・ そうだんホットラインの運用
- ・ A L T 配置による外国語授業
- ・ 英語検定取得支援
- ・ 教育環境の整備と充実

B. K P I（重要業績評価指標）の状況

K P I	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R6目標値	状況
全国学力・学習状況調査で県平均を上回る科目数（小6）	科目		0/2	0/2	未実施	0/2	2/2	
全国学力・学習状況調査で県平均を上回る科目数（中3）	科目		0/3	0/3	未実施	0/3	3/3	
新体力テストで県平均を上回る種目数（小）	種目		38/96	35/96	未実施	48/96	96/96	
新体力テストで県平均を上回る種目数（中）	種目		35/54	33/54	未実施	27/48 ※	48/48 ※	
小中学校における不登校児童・生徒数	人		小11 中68	小13 中81	小18 中88	小 32 中106	小 7 中39	

※中学生の新体力テストは、R3年度に種目数が減少したため、母数を減じている

(3) 行田の未来を担う人材育成

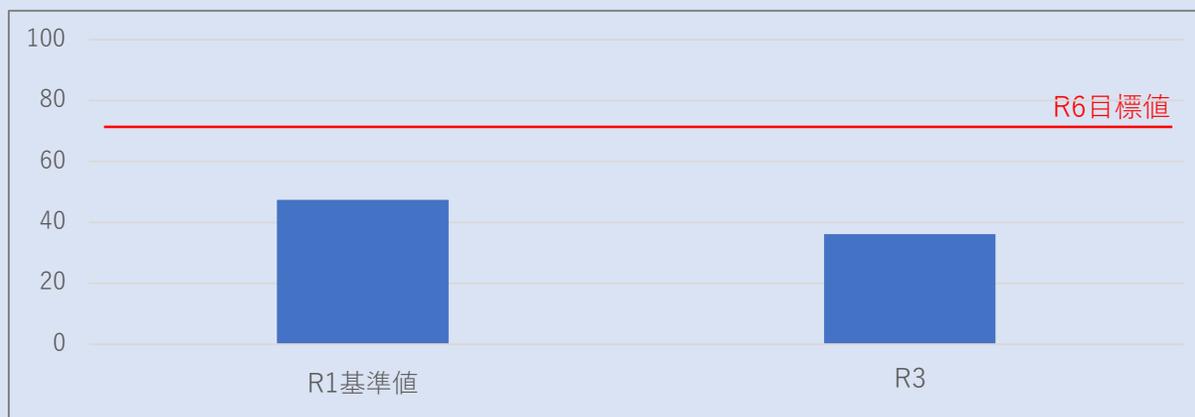
C. 課題と今後の取組予定

- ・星宮小と中央小を統合して忍小に、須加小と荒木小を統合して見沼小に再編し、北河原を南河原小に編入して複式学級を解消した。今年度は、太田西小と太田東小を、太田小として統合しR5年4月に開校予定
- ・市立小中学校に市独自の学力向上支援教員を配置し、国語や算数、外国語（英語）の授業において複数指導（チームティーチング）や補習授業を実施しているが、R3年度時点で県平均を上回る教科はなかった。今後も学力向上支援教員やALTの効率的な配置を検討しつつ、学力向上を目指す
- ・新型コロナウイルス感染症による学校や家庭での環境の変化などもあり、全国的に不登校児童・生徒が増加しており、本市でも同様に増加している
- ・子どもたちの抱える様々な悩みに対応できるよう、これまで運用していたいじめ相談ホットラインを「相談ホットライン」に改め、広く相談を受けられる体制を整備している
- ・小学校5年生、中学校2年生に対して年間2回の学校集団アセスメント「Hyper-QU」（学校生活に対する満足度や意欲、悩みなど児童生徒一人ひとりの心の状態を把握する心理テスト）を実施する

基本目標 4 時代に合った活力ある安心な地域を創る【地域活力創造戦略】

基本目標

指標名	単位	累計	R1基準値	R3	R6目標値	状況
行田が「住みよい」と考える市民の割合	%		47.4	36.1	70.0	↓



(1) 時代に合った地域マネジメントの推進

(2) 地域コミュニティの連携強化

(3) 健康長寿づくりの推進

(1) 時代に合った地域マネジメントの推進

A. R3度を実施した主な事業

- ・市内循環バスルート見直し
- ・空き家等バンク制度の運用（登録3件）
- ・デマンドタクシー事業
- ・老朽空き家等解体補助事業（7件交付）

B. K P I（重要業績評価指標）の状況

K P I	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R6目標値	状況
市内循環バス利用者数	人		236,301	238,142	166,929	183,654	260,000	 *
デマンドタクシー利用回数	回		22,295	24,772	22,919	26,946	30,000	
問題空き家の指導による改善割合	%	○	40.86	48.48	54.97	56.95	50.00	

C. 課題と今後の予定

- ・市内循環バス利用者数は、回復傾向にはあるものの、コロナ禍以前と比較して利用者数が減少している。R3年度は観光循環拠点コースを観光に特化したコースに見直しした
- ・人口減少や高齢化に対応した持続可能な交通体系構築のため、R5年度中に行田市公共交通計画を策定し、市の公共交通網の総合的な見直しを行う
- ・老朽空き家等解体に対する補助金制度に加えて、R4年度からは新たに、空き家の利活用（改装して地域の交流拠点として利用する場合等）に対する新たな補助制度を開始する
- ・空き家除去促進のための公民連携の取組みとして、空き家の「AIによる解体費用シミュレーター」の提供を開始した

(2) 地域コミュニティの連携強化

A. R3年度に実施した主な事業

- ・いきいき元気サポーター制度（活動件数1,772件）
- ・自主防災組織リーダーの育成
- ・支え合いネットワーク（19件）
- ・自主防犯活動団体の設立及び育成支援

B. K P I（重要業績評価指標）の状況

K P I	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R6目標値	状況
いきいき元気サポーター数	人		149	136	120	118	180	 *
支え合いネットワーク協定締結数	件		18	18	19	19	30	
防災訓練を実施している自主防災組織数	%		23.2	22.0	28.10	31.1	70.0	 *
自主防犯活動団体数	団体		165	168	168	170	175	

C. 課題と今後の取組予定

- ・いきいき元気サポーターは、R3年度に6名が新規で登録したが、高齢化に伴いサポーター数の減少が課題となっている
- ・自主防災組織や自主防犯活動団体に対して各種支援を行っているが、長引くコロナ禍で活動が停滞していることから、コロナ禍における防災訓練の実施方法などを提示し、活動の活性化を図る
- ・地域の防災力強化に向けて防災士を育成するため、R4年度から行田市防災士養成講座を開始する
- ・自主防犯活動団体は、高齢化により組織の解散も見られたことから、組織の合併を提案するなど、持続可能な体制づくりをサポートする

(3) 健康長寿づくりの推進

A. R3年度に実施した主な事業

- ・ 各種健康づくり推進事業（薬局を拠点とした健康づくり事業、健康づくりチャレンジポイント事業など）
- ・ 地域包括ケアシステムの推進
- ・ 高齢者の社会参加の促進

B. K P I（重要業績評価指標）の状況

K P I	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R6目標値	状況
健康教室等参加者数	人		2,597	2,774	1,164	1,022	6,000	 *
シルバー人材センター会員数	人		350	359	342	334	410	
高齢者総合相談支援件数（訪問）	件		1,891	1,971	1,901	2,423	2,500	

C. 課題と今後の取組予定

- ・ コロナ禍における健康づくり促進のため、感染症対策を徹底しながら引き続き各種事業を実施していく
- ・ シルバー人材センター会員数は、企業の定年延長などにより新規会員の確保が難しくなっている。今後は、労働者派遣事業の実施など、継続的な就業が多い事務系の職種の就業機会の拡大を図る
- ・ 地域包括ケアシステム推進による介護予防の推進や生活支援体制づくりとともに、地域共生社会実現に向けた包括的な支援体制整備を進める